

事業実績報告

2021年度



社会福祉法人
希耀會

🌸 目次

法人概要 3



事業実績（特別養護老人ホーム） 4
事業実績（ショートステイ） 5
重点目標の振り返り 5・6・7



事業実績（特別養護老人ホーム） 8
重点目標の振り返り 9・10



事業実績（住宅型有料老人ホーム）11
事業実績（グループホーム）12
事業実績（小規模多機能ホーム） 13
事業実績（地域密着型デイサービス）14
重点目標の振り返り15



事業実績16・17
事業活動報告18
令和3年度の振り返り19

🌸 法人概要

1. 沿革

- 平成 18 年 10 月 社会福祉法人 希耀會 設立認可
 平成 21 年 3 月 特別養護老人ホーム 花乃路 開設
 平成 21 年 6 月 ショートステイ花乃路(特別養護老人ホーム花乃路併設) 開設
 平成 23 年 4 月 花乃路保育園 開設
 平成 24 年 2 月 特別養護老人ホーム花乃路 「はなれ」開設 20名増床
 平成 24 年 7 月 特別養護老人ホーム あやめ苑 開設
 平成 25 年 2 月 デイサービスセンター花乃路(特別養護老人ホーム花乃路併設) 開設
 平成 27 年 4 月 複合型高齢者施設ベイサイドわかまつ 開設
 令和 2 年 1 月 デイサービスセンター花乃路 廃止

2. 法人の実施事業

事業の種類		施設・事業種別	名称	定員
社会福祉事業	第一種 社会福祉事業	介護老人福祉施設	特別養護老人ホーム花乃路 (管理者：上野 晃嗣)	100 名
			特別養護老人ホームあやめ苑 (管理者：山内 勉)	100 名
	第二種 社会福祉事業	短期入所生活介護	ショートステイ花乃路 (管理者：上野 晃嗣)	10 名
		保育所	花乃路保育園 (管理者：永松 貴美恵)	90 名
		小規模多機能型 居宅介護事業	小規模多機能型施設 ベイサイドわかまつ (管理者：佐野 美代子)	登録 29 名 通い 15 名 宿泊 5 名
		認知症対応型老人 共同生活援助事業	グループホーム ベイサイドわかまつ (管理者：小田 晃一郎)	18 名
公益事業	有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム ベイサイドわかまつ (管理者：的場 秀人)	15 名	
	老人デイサービス	デイサービスセンター ベイサイドわかまつ (管理者：水谷 美咲)	10 名	
収益事業	屋根賃貸 (太陽光発電売電)	特別養護老人ホーム花乃路 (管理者：上野 晃嗣)	—	



社会福祉法人 希耀會
特別養護老人ホーム

花乃路

🌸 特別養護老人ホーム事業実績

1. 月別在籍者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男性	11	11	8	8	8	9	10
女性	83	82	83	83	80	79	81
合計	94	93	91	91	88	88	91
稼働率	91.8%	89.8%	87.3%	88.9%	85.6%	86.8%	87.9%
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
男性	9	10	10	10	11	9.58	
女性	81	80	81	78	79	80.8	
合計	90	90	91	88	90	90.4	
稼働率	87.4%	86.5%	86.3%	83.5%	84.0%	87.2%	

2. 平均年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男性	88.2	88.0	87.9	87.2	88.1	87.1	86.0
女性	89.3	89.3	89.3	89.0	89.6	88.5	88.4
平均年齢	88.8	88.6	88.8	88.1	88.8	87.8	87.2
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
男性	86.7	86.8	86.3	86.9	87.3	87.2	
女性	88.9	89.0	88.9	88.8	88.8	88.6	
平均年齢	87.8	87.9	87.6	87.8	88.0	88.1	

3. 要介護別入居者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
要介護1	2	2	1	1	1	2	1
要介護2	12	12	12	12	11	12	11
要介護3	24	24	24	26	27	25	25
要介護4	31	31	30	31	30	30	35
要介護5	25	24	24	21	19	19	19
平均介護度	3.69	3.67	3.70	3.64	3.62	3.59	3.65
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
要介護1	2	2	2	3	2	1.75	
要介護2	9	12	11	12	10	11.33	
要介護3	23	24	28	25	29	25.33	
要介護4	36	34	34	31	31	32.00	
要介護5	19	18	16	18	17	19.91	
平均介護度	3.64	3.60	3.56	3.59	3.77	3.64	

🌸 ショートステイ事業実績

1. 要介護者別利用者延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
要介護1	38	31	22	22	30	15	26
要介護2	9	23	20	30	28	37	50
要介護3	8	60	68	53	38	37	46
要介護4	45	56	52	63	31	36	27
要介護5	5	33	32	33	35	34	30
要支援1	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	4	0	0	8	2	0	0
合計	109	203	194	209	164	159	179
稼働率	36.3%	65.5%	64.7%	67.4%	52.9%	54.3%	57.7%
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
要介護1	37	21	8	16	16	23.5	
要介護2	37	33	32	45	30	31.1	
要介護3	46	30	33	49	68	44.6	
要介護4	31	38	15	18	49	38.4	
要介護5	6	2	2	4	2	18.0	
要支援1	0	0	0	0	0	0	
要支援2	4	0	0	0	0	1.5	
合計	161	124	90	132	165	157.4	
稼働率	54.3%	39.7%	29.0%	47.1%	53.2%	51.9%	

🌸 重点目標の振り返り

1. ケアの質の向上

新型コロナウイルス感染症による、生活変容が余儀なくされる中、ご利用者に対し何ができるかを考え、安心、安全な生活が守られるよう行動します。

ご家族様に対しては、新たに面会ブースを設け非接触であるものの、対面での面会を一時的に解禁できたことは大変良かったと思う。その他、遠方のご家族様に対してのビデオレターの作成や日常生活上での変化等についてはこまめにご報告する事ができた。施設内生活においては、個別に施設外の散策時間を設けたり、外出レクや食事を出前にして日々の生活にアクセントをつける働きかけを各ユニットが意識的に取り組めており、昨年度より施設でできる事を広げる事が出来たと思う。

一方で昨年度は感染力の強いオミクロン株が猛威を振るい、感染した職員も複数名発生したものの、迅速な感染症対応のもと、クラスターに発展することなく最小限の拡散に留める事ができた。

今まで取り組めていない加算にも挑戦しサービスの質の向上が図ります。

昨年度は介護報酬の改定が施行された年であり、プラス改訂(+0.7%)と言う明るいニュースもあったものの、ふたを開けてみると、財政均衡とうたわれた中で差引が絶妙となっており大きなメリットは発生しないものであった。新たな加算として科学的介護推進体制加算

(LIFE)がスタート。ルールの把握、新たな作業の振り分け等に時間を多く要した。取り組むべき加算体制の構築は成されたものの、経験のない新たな加算へのチャレンジは達成できなかった。今後は LIFE をいかに運営に活かしていくかが課題であり、基礎報酬包括化が予想される加算についても先を見据えて取り組んでいく必要がある。

ご利用者とご家族のコミュニケーションを活性化するため、ICT 等を活用した、面会方法の確立や、ご家族に安心していただくよう施設生活の様子を伝える事ができるような取り組みを進めます。

ICT を活用した介護に対し情報収集を行い、計画を立て、次年度実行できるよう準備を進めます。

Ipad等を活用した面会や、ご家族の結婚式等への参加、見学者への対応など、ICT の可能性を精査してきた一年であった。生産人口が激減する 2025 年問題を念頭に、少ない職員の中で運営できる体制を構築するために ICT は欠かせないツールと考えており、当施設では見守り機器導入の検討を進めている。今年度はどのような機器があり、施設のマッチングも含め様々なプレゼンを受けており、マッチングする機器についてはある程度絞り込むことができた。また、導入に当たりどのくらいの経費が必要かも確認ができた。助成金の動向及び施設の経費面も含め導入時期の検討を進めていきたい。

2. 職員の資質向上

職種、キャリアに沿った内・外部研修を積極的にを行います。

研修の殆どが、新型コロナウイルス感染症の影響から remote 主流の中、昨年度よりも多く職員が研修を受講する事ができた。今後は、学んだ事をアウトプットする機会を構築する事が課題となっており、内部研修の在り方や実施方法等について協議を進めていく。

ユニットリーダーの育成、及び次世代の育成に対し積極的に取り組みます。

次世代の育成については、短期間では実現が困難な課題であり、今後も長期的なスパンの中で育成カリキュラムの設定や役職後任者の選任方法等の仕組み作りを検討していく。

職員の定着が図れるよう、特に新卒、中途採用者が退職する事が無いよう、新入職者に対するサポート体制を構築します。

慢性的な介護職不足の解消のため、業務の効率化を図り、適正な人員配置に努め、求人活動を積極的に取り組みます。

昨年度の離職者は 5 名一方で入職者は 12 名となっており離職者は最小限に留める事ができた。離職者対策としては中途採用者やメンタル不調者への定期的な面談を行い、介護主任を中心としたメンター制度を進めてきた効果が出てきていると感じている。

一方で入職者については、施設長を中心としてハローワークや人材バンク等に足を運び施設のアピールに努め、若者サポートセンターでは定期的に求職者に対し介護の魅力や福祉の仕事の理解等の公演させて頂くなど、啓発活動もしっかりと行うことができた。

正職の介護福祉士取得率を80%以上になるよう資格取得に向けたサポートを行います。

85%を超える取得率となり、今後も未取得の職員に対しても取得を目指しサポートしていく。

危機管理を随時見直し、決められたことを確実に履行し、無理、無駄、ムラのない組織づくりを目指します。

各事業のBCP対策のブラッシュアップ、担当者の研修参加等に取り組むことができた。

3. 継続的な健全経営を確立

収支バランスの取れた健全経営を目指します。

稼働率92%以上を維持できるよう入退所調整を行います。

施設利用待機者数を増やすため、地域への働きかけや営業活動を積極的に行います。

昨年度は花乃路始まって以来最多の退所者が発生した事から、稼働率低下の大きな原因となった。また、主に入退所調整を行う生活相談員が1名体制であった事が稼働率の回復を妨げる足枷になったと感じている。また、待機者が減少している事も影響しているものと思われる。今年度は、生活相談員を2名体制とし迅速な入退所調整ができるよう体制を整え、待機者の減少については、地元自治会への働きかけや様々な媒体を通じ入所待機者を増やしていく取り組みが今後は更に重要である。

支出に関しては昨年度より削減ができており、固定費やサプライ関係等について引き続き精査を進めたい。

地域活動について、施設で協力可能な事や、施設から地域に向けた発信ができるような活動等を検討し、コミュニティの活性化に努めます。

新型コロナウイルス感染症の影響から、地元自治会の活動も停滞しており、協力する形がなかなか見いだせなかったことから、施設として何が出来るかを自治会と協議をし、登録メールによる緊急連絡システムを構築する事となり、施設として協賛させて頂いた。今後も自治会と共に発展できる関係を続けていけるよう努力していきたい。



社会福祉法人 希耀會
特別養護老人ホーム

あやめ苑

🌸 特別養護老人ホーム事業実績

1. 月別在籍者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男性	17	17	18	18	18	20	20
女性	68	68	69	68	69	68	68
合計	85	85	87	86	87	88	88
稼働率	75.2%	79.2%	83.1%	80.7%	79.7%	81.1%	84.2%
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
男性	19	19	21	20	20	18.9	
女性	72	69	69	70	70	69.0	
合計	91	88	90	90	90	87.9	
稼働率	85.1%	82.0%	83.3%	87.0%	87.4%	82.3%	

2. 平均年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男性	83.1	84.4	84.2	83.8	83.9	84.3	84.3
女性	88.3	88.6	88.6	88.6	88.7	89.0	89.2
平均年齢	85.7	86.5	86.4	86.2	86.3	86.7	86.8
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
男性	84.3	84.5	85.0	85.3	85.3	84.4	
女性	88.8	88.9	88.9	89.0	89.1	88.8	
平均年齢	86.6	86.7	87.0	87.2	87.2	86.6	

3. 要介護別入居者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
要介護1	4	4	4	3	3	3	3
要介護2	8	9	8	8	7	6	7
要介護3	12	11	15	15	15	17	18
要介護4	30	29	27	27	29	29	28
要介護5	31	32	33	33	33	33	32
平均介護度	3.89	3.89	3.89	3.92	3.94	3.94	3.90
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
要介護1	3	3	3	3	3	3.3	
要介護2	7	7	6	6	6	7.1	
要介護3	20	20	21	23	22	17.4	
要介護4	29	26	26	25	25	27.5	
要介護5	32	32	24	33	34	32.7	
平均介護度	3.88	3.88	3.91	3.88	3.90	3.90	

重点目標の振り返り

1. 安全・安心な生活環境の確保

新型コロナウイルス感染症による日常生活上の制限・制約に対して創意工夫を図り、充実した日常を過ごしていただけるよう生活支援に努めます

周辺地域や社会全体における流行状況に応じて、家族面会の実施や散髪などの外部サービスの利用調整を図った。また、季節の花見など外出行事についても機会を持つなど、ユニット単位で工夫しながら安全面を確保した上で行事の実施にも取り組んだ。

新型コロナウイルス感染症に関する業務継続計画の随時の見直しを行いながら、有事発生時に適切な対応ができるよう物心両面の整備を図ります

年度内に計3回のワクチン予防接種を施設内で実施し、9割以上の入居者・職員が接種された。職員5名が家庭内感染にて罹患したが、幸いにも施設内に持ち込まれることなく、入居者の中で罹患された方はいなかった。しかし、濃厚接触が疑われ自宅待機となる職員は毎月のように出てしまい、勤務編成に苦慮する事も多かった。その反面で状況に応じた待遇面の整備や初動や早期の情報共有など、予防対策の強化と業務継続計画の整備につなげる事ができた。

接遇マナーレベルを向上し、入居者の皆様方が快適で心から安心できるようなサービスの提供に努めます

11月より施設全体で入居者に対する接遇マナー評価制度を導入。同じ部署で働いているチーム内で互いを評価しあい、対人援助サービス従事者としての基本姿勢の向上に取り組んでいる。施設自体の評価を高め、他施設との差別化を図る事を目的としており、今後も継続していく。

2. 人材育成への取り組み

コロナ禍においてもリモート研修など内外研修体系の工夫を図り、研修機会を確保し職員個々の資質向上に努めます

内部研修については動画配信研修の導入を行い、一年間を掛けて本格的な運用に努めた。新入職員・中堅職員・役職者などの職位に応じて研修テーマを選別し、実施機会も多く確保するなど、例年以上に効果的に取り組む事ができた。また、外部研修についても、開催形態はオンライン研修が殆どであったが、例年同様に参加することができ、総じて職員個々の資質向上につながったと考える。

3. 高品質サービスの提供に向けて

部署内・部署間における情報の共有と連携機会の充実を図り、施設全体の「一体感」の醸成とチームワークバランスの充実を目指すとともに、組織におけるガバナンス体制の再構築に努めます

施設全体の安定を図るべく多職種連携会議を活用し、ソフトサービス面の課題改善に努めた。結果として情報共有体制の安定化につながり、組織の雰囲気も落ち着きが見られるようになったことで、発展途上ではあるものの施設全体の「一体感」の醸成とチームワークの充実が図られたと評価できる。

4. 健全経営の確立に向けて

入所総数90名、平均実入居数85名の早期達成に取り組めます

5月に黒字転換を果たし、以後翌年3月までの間は一度も月間収支がマイナスに陥る事なく比較的安定して収益を維持する事ができた。11月には重要な目標の一つであった入所総数90名となり、その後は小幅な入退所が続いたものの、年度末まで大きな落ち込みもなく維持することができた。また、下半期には月平均での実入居数が85名を越す実績を複数の月で残すことができ、次年度では年平均での達成を目標としたい。

介護報酬の改定に伴い、新規創設加算や減算等の基準要件を理解し、適切な加算の取得に努めます

新規で創設された加算(科学的介護推進体制加算)や変更となった基準要件に対しては、支障なく取得あるいは対応する事ができている。今後については、集まったデータベースの活用など更なる取り組みが必要となる事も予測されるため、行政からの情報提供に関心を高く持ち、今後の変化に迅速に対応できるように備えておく。

5. 地域福祉の拠点となるために

コロナ禍により地域交流機会が十分に保てない環境下において、西十四区自治会や周辺地域の住民の方々に対して要望調査を図りながら、地域貢献活動の実践につなげます

今年度もコロナ禍によって様々な地域行事が中止や規模の縮小を余儀なくされ、感染症予防対策の観点から地域住民の方々との交流の機会を持つ事は叶わなかった。そういった環境下においても地域貢献活動として、①低所得者の入所受入れ(月平均5名) ②地域清掃活動(まち美化清掃) ③福岡県災害派遣福祉チーム(DWAT)への参加登録 などをを行った。残念ながら西十四区地域住民への貢献活動として成果を出す事はできなかったが、次年度は認知症等行方不明者一時保護事業への登録と生活困窮者への支援などを実現し、より具体的な地域貢献活動に努めていきたい。



🌸 住宅型有料老人ホーム事業実績

1. 月別在籍者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男性	6	5	5	5	5	5	5
女性	8	8	9	10	10	10	10
合計	14	13	14	15	15	15	15
稼働率	93%	87%	93%	100%	100%	100%	100%
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
男性	5	6	6	6	6	5.4	
女性	9	9	9	9	9	9.2	
合計	14	15	15	15	15	14.6	
稼働率	93%	100%	100%	100%	100%	97.1%	

2. 平均年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男性	84.4	84.5	84.5	84.4	84.6	84.6	84.6
女性	88.4	88.3	88.3	88.4	88.4	88.4	88.4
平均年齢	88.4	88.3	88.3	88.4	88.4	88.4	88.4
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
男性	84.6	85	85	85	85	84.7	
女性	88.3	86.7	86.7	86.7	86.7	87.8	
平均年齢	88.3	86.7	86.7	86.7	86.7	86.7	

3. 要介護別入居者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
自立	1	1	1	1	1	1	1
要支援1	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	9	9	10	9	9	9	9
要介護2	3	2	2	3	3	3	2
要介護3	1	1	1	2	2	2	2
要介護4	0	0	0	0	0	0	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0
平均介護度	1.20	1.07	1.13	1.40	1.40	1.40	1.27
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
自立	1	1	1	1	1	1.0	
要支援1	0	0	0	0	0	0	
要支援2	0	0	0	0	0	0	
要介護1	9	9	8	8	8	8.8	
要介護2	2	2	3	3	3	2.7	
要介護3	2	2	3	3	3	2.1	
要介護4	0	0	0	0	0	0	
要介護5	0	0	0	0	0	0	
平均介護度	1.27	1.27	1.53	1.53	1.53	1.33	

🌸 グループホーム事業実績

1. 月別在籍者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男性	1	1	1	1	1	1	1
女性	17	17	17	16	17	17	17
合計	18	18	18	17	18	18	18
稼働率	100%	100%	100%	98.6%	96.4%	100%	100%
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
男性	1	1	1	1	1	1.4	
女性	17	17	17	17	17	16.3	
合計	18	18	18	18	18	17.7	
稼働率	96.6%	100%	100%	99.6%	100%	98.3%	

2. 平均年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男性	90	90	90	90	90	90	90
女性	90.9	90.9	91	91	91.5	91.5	91.6
平均年齢	90.8	90.9	90.9	90.9	91.4	91.4	91.6
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
男性	90	90	90	90	90	90.1	
女性	91.4	91.4	91.5	91.5	91.5	91.3	
平均年齢	91.3	91.3	91.4	91.4	91.5	91.2	

3. 要介護別入居者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
要介護1	3	3	3	3	3	3	3
要介護2	7	6.7	6	6	6	6	6
要介護3	8	8	7.4	7	7.4	8	8
要介護4	0	0	0	0	0.9	0	0
要介護5	0	0	0	0	0	0	0
合計(延数)	540	548	491	496	536	510	527
平均介護度	2.28	2.28	2.27	2.25	2.36	2.29	2.29
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
要介護1	2.7	2	2	2	2	2.7	
要介護2	6	6	6	6.4	5	6.1	
要介護3	8	10	10	9.2	8.6	8.3	
要介護4	0	0	0	0	1	1.9	
要介護5	0	0	0	0	1	1.0	
合計(延数)	503	558	558	491	545	525.5	
平均介護度	2.31	2.44	2.44	2.41	2.66	2.36	



✿ 小規模多機能型ホーム事業実績

1. 月別在籍者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男性	12	11	11	13	14	12	12
女性	17	16	15	15	15	14	16
合計	29	27	26	28	29	26	28
稼働率	100%	93.1%	89.7%	96.6%	100%	89.7%	96.6%
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
男性	13	14	14	14	13	12.8	
女性	14	14	15	15	15	15.1	
合計	27	28	29	29	28	27.8	
稼働率	93.1%	96.6%	100%	100%	96.6%	96.0%	

2. 平均年齢

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男性	83	82.7	82.8	83.6	84	84.2	82.8
女性	86.7	86.7	87.5	87.2	87.3	86	86
平均年齢	85.3	85.0	85.5	85.6	85.7	85.2	84.6
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
男性	83.4	83	83.2	83.3	83.9	83.3	
女性	85.6	85.4	84.3	84.3	85	86.0	
平均年齢	84.6	84.2	84.0	84.0	84.5	84.8	

3. 要介護別入居者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
要介護1	7	7	8	8	8	7	6
要介護2	13	13	12	13	14	10	13
要介護3	6	5	5	6	6	7	6
要介護4	0	0	0	0	0	0	1
要介護5	3	2	1	1	1	2	2
合計	29	27	26	28	29	26	28
平均介護度	2.3	2.1	2.0	2.0	2.0	2.2	2.3
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
要介護1	5	7	7	7	4	6.8	
要介護2	12	12	13	13	13	12.6	
要介護3	7	6	6	6	9	6.3	
要介護4	1	1	1	1	0	0.4	
要介護5	2	2	2	2	2	1.8	
合計	27	28	29	29	28	27.8	
平均介護度	2.4	2.3	2.2	2.2	2.4	2.2	



🌸 地域密着型デイサービス事業実績

1. 月別在籍者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男性	7	6	6	6	7	6	6
女性	12	13	14	15	13	12	12
合計	19	19	20	21	20	18	18
稼働率	86.2%	81.2%	89.6%	91.9%	83.8%	84.2%	85.8%
	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
男性	6	8	8	9	10	7.1	
女性	12	13	14	13	12	12.9	
合計	18	21	22	22	22	20.1	
稼働率	77.7%	90.7%	87.2%	83.8%	79.6%	82.4%	

2. 要介護別入居者推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	72	73	86	58	58	42	61
要介護2	84	84	91	134	122	150	146
要介護3	50	46	47	52	38	27	16
要介護4	10	8	9	4	0	0	0
要介護5	8	0	0	0	0	0	0
利用者延数	224	211	233	248	218	219	223
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
要支援1	0	0	0	0	0	0	
要支援2	0	0	0	0	0	0	
要介護1	54	58	54	51	68	735	
要介護2	134	153	138	124	112	1,472	
要介護3	14	20	21	18	21	370	
要介護4	0	0	3	4	9	47	
要介護5	0	4	2	4	5	23	
利用者延数	202	235	218	201	215	2,647	

🌸 令和3年度重点目標

1. 地域に根差した包括的支援を目指します

- ・利用者様お一人おひとりのこれまでの生活・歴史を大切にし、住み慣れた土地で安心して穏やかな生活が送れるようサポートします。
- ・地域密着型の施設として、地域との関係性を重視し、利用者様が地域社会の一員として参加できる機会を多く持つようにします。(地域の行事等へ積極的に参加します。)
- ・利用者様との関係を大切に「気づき」「心配り」「寄り添う気持ち」を常に持ち、個別ケアの実践を目指します。

2. 職員の教育及びサービスの質の向上を目指します

- ・「福祉」の仕事に、やりがいと誇りを持てるよう、職場環境を整備し、人材育成に取り組み離職率低下に努めます。
- ・良質で安心できるサービスを提供するために、各職員が意識を高く持ち、常に自己啓発に励めるようサポートします。
- ・職員のキャリアアップのため、各種研修に積極的に参加してもらうとともに、資格取得時には助成制度等も含め、組織全体でバックアップします。
- ・決して職員都合の業務は行いません。ご利用者様主体、時代にマッチしたケアを行います。

3. 安定した経営環境を構築し、地域福祉の向上に努めます。

- ・より安定した財務基盤、正確な財務管理、会計処理を行います。
- ・運営については、組織内の責任と裁量権の範疇を明確にし、コンプライアンスを順守します。
- ・地域福祉の拠点として、地域との関わりを密にするとともに、地域高齢者の困りごとを気軽に相談できるような社会資源としての役割を果たします。

重点目標の振り返り

令和3年度も前年度同様に一年間ほぼコロナ禍の中、なかなか思うような活動(外部ボランティアのお受入れ)が出来ませんでした。特に地域との関わりが強いこの地区で、ご利用者様が毎年楽しみにされていた、恒例のソーメン流し、夏祭り、餅つき大会なども一昨年に続き中止となりました。そんな中、「新しい生活様式」「with コロナ」という考えのもと、細心の感染予防対策を講じながらスタッフが知恵を搾り出し、いろいろなレクリエーション、アクティビティを考え実施してまいりました。季節感を味わっていただくために、秋にはコスモスの見学、お正月にえびす神社へのお参り(時期をずらして)、春にはお花見とドライブ、少しずつではありますが外に出かける機会も設けました。長引くコロナ禍のなかで、どうしてもご自宅にこもりがちにご利用者様の体力面、精神面、環境面の維持・改善に少しではありますがお役に立てたのではないかと考えます。「人材育成」の点では、リモートの研修から対面での研修に移行しつつありますが、引き続き、積極的にスタッフが受講しやすい環境を整備しております。スタッフ一人ひとりのレベルアップが「ケアの質の向上」、延いてはご利用者様の「安心」につながると考え、施設全体で取り組みたいと思います。先般、不安定な社会情勢で大きな不安を抱えていらっしゃるご利用者様も多くいらっしゃいます。また、地域に中にも多くの高齢者問題を抱えている方がいらっしゃいます。ご家族様、地域の方々の「お困りごと」に少しでもお役に立てるよう、今後も職員一丸となり、努力してまいる所存でございます。



社会福祉法人 希耀會

花乃路保育園

🌸 保育園事業実績

1. 入園児人数表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
0歳児	8(1)	8(1)	8(1)	9(1)	10(1)	12(1)	18(1)
1歳児	18	18	18	19	19	19	18
2歳児	13	13	13	13	14	13	14
3歳児	21	21	21	21	21	21	21
4歳児	17	17	17	17	17	17	17
5歳児	18	18	18	18	18	18	18
合計	95	95	95	97	99	100	106
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
0歳児	18(1)	19(1)	19	19	19	167	
1歳児	18	17	17	17	17	215	
2歳児	14	15	15	15	15	167	
3歳児	21	21	21	21	21	252	
4歳児	17	17	17	17	17	204	
5歳児	18	18	18	18	18	216	
合計	106	107	107	107	107	1,221	

2. 延長保育人数表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
0歳児	0	0	0	0	0	0	0
1歳児	3	3	3	4	4	3	3
2歳児	2	2	2	2	1	2	3
3歳児	5	5	5	6	5	5	6
4歳児	2	2	2	2	2	2	2
5歳児	4	4	4	5	4	4	4
合計	16	16	16	19	16	16	18
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
0歳児	0	0	0	0	0	0	
1歳児	3	3	3	3	3	38	
2歳児	3	3	3	3	3	29	
3歳児	6	6	6	6	6	67	
4歳児	2	2	2	2	2	24	
5歳児	4	4	4	4	4	49	
合計	18	18	18	18	18	207	



3. 一時保育人数表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
0歳児	0	0	0	0	0	0	0
1歳児	13	9	21	21	14	13	11
2歳児	24	5	11	31	15	0	23
3歳児	7	1	0	0	0	0	0
4歳児	0	0	0	0	0	0	0
5歳児	0	0	0	0	0	0	0
合計	44	15	32	52	29	13	34
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
0歳児	0	0	0	0	0	0	
1歳児	10	17	6	0	5	140	
2歳児	13	0	0	0	0	122	
3歳児	0	0	0	0	0	8	
4歳児	0	0	0	0	0	0	
5歳児	0	0	0	0	0	0	
合計	23	17	6	0	5	270	



花乃路保育園 事業活動報告（令和3年度）

実施月	外部研修	人数	内部研修	人数
4月			保育目標及び専門職としての目標	18名
			人権研修	18名
5月	新任保育士研修（第1回）	1名	災害時の対応について（災害備蓄品の確認）	18名
	●第1回献立検討研修会	1名	人権研修（園長研修）	18名
6月	リーダー研修会	1名	保育実践について（0歳児クラス）	18名
	*●乳児保育研修（全4回実施）	1名		
	●遊びを豊かにする言葉の研修会	1名		
	実習指導担当研修会	1名		
	職場内研修	1名		
7月	第1回給食献立伝達研修	1名	0歳児保育見直しのすすめ（園長研修）	18名
			人権研修	18名
8月	相談員研修会	1名	遊びを豊かにする言葉の研修	18名
	●カウンセリング研修（全3回実施）	1名	人権研修	18名
9月	*●幼児教育研修（全3回実施）	1名	遊びを豊かにする言葉の研修	18名
	●福岡県保育協議会保育士会研修研究大会	4名	人権研修	18名
10月	●保育施設の安全管理に関する研修	1名	保育実践について（4歳児クラス）	18名
	●全国保育士会研究大会	1名		
	*●保健衛生・安全対策研修（全3回実施）	1名		
	領域（表現・人間関係・環境）	1名		
11月	●北九州市保育研修大会（施設長）	1名	保育実践について（3歳児クラス）	18名
	●北九州市保育研修大会（保育士）	11名		
	●全国保育研究大会	1名		
	食事に関する研究研修会	1名		
	●職員専門研修	1名		
12月	国連ウイメン日本協会北九州研修会	1名	保育実践について（2歳児クラス）	17名
	*●マネジメント研修（全2回実施）	1名		
	遊びを豊かにする言葉の研究研修会	2名		
	新任保育士研修（第2回）	1名		
	●令和3年度保育所（園）長研修	1名		
1月	調理員研修	1名	保育実践について（1歳児クラス）	17名
	*●食育アレルギー研修（全3回実施）	1名		
	●中堅保育士研修（全3回実施）	1名		
	第3者評価フォローアップ研修	1名		
	●九社連保育協議会保育士会研修	1名		
	●保育所職員総合研修大会	1名		
	●保育総合研修会（全3回実施）	1名		
2月	北九州市保育士研究研修会	1名	保育実践について（5歳児クラス）	15名
	●人権研修	1名		
	●全国保育士研修大会	1名		
	●給食献立伝達研修	1名		
	●令和3年度若松区民医学講座	11名		
	●保育と環境講座	11名		
3月	●児童虐待対応研修	1名	自己評価	18名
	●九州ブロック研修（宮崎）	1名	人権研修	15名

* → キャリアアップ研修 ● → オンライン研修

年間行事

実施月	行事名	地域行事 (中止)
4月	第11回入園・進級式・芋の苗植え・園児内科健診	
5月	4・5歳児歯科検診・遠足ごっこ・ゴミ0の日清掃活動	
6月	夏野菜の苗植え・保育参観週間・夏野菜の苗植え	
7月	プール開き・七夕まつり・おひさまのいえ日帰り保育	
8月	夏野菜の収穫・お祭りごっこ	
9月	敬老の日(花乃路訪問)・冬野菜の種まき	
10月	運動会・保護者個人懇談会・ハロウィンパーティー	
11月	総合避難訓練・芋掘り・焼き芋パーティー	
12月	生活発表会・クリスマス会	
1月	買い物体験(5歳児)	
2月	豆まき	
3月	ひな祭り会・お別れバイキング・第11回卒園式・終了式	

毎月の活動【誕生会・身体測定・避難訓練・4・5歳児体操教室】

- ・ 地域行事は新型コロナ感染対策のため中止になりました。
- ・ 特別養護老人ホーム「花乃路」との交流はできませんでしたが、窓越しに手を振るなど、運動会の様子や園庭での遊びの様子をご覧いただいています。
- ・ 行事が感染対策で中止になる中、園内で楽しめることを模索しながら、園児には様々な体験を提供しました。

実習生等受け入れ実績

実習依頼施設	実習期間	参加人数
九州女子短期大学(1年生)	2/15～2/26	1名(保育科)
九州女子大学(2年生)	2/15～2/26	1名(保育科)
九州女子大学(3年生)	2/15～2/26	1名(保育科)

- ・ 新型コロナ感染対策として、園児との非接触、見学実習を行いました。

令和3年度の振り返り

感染力の強いオミクロン株により、ワクチン接種が出来ない乳幼児の陽性者が拡大し、全国的にも休園となる施設が増加しました。感染症対策を徹底しながらも、園児に寄り添い、抱きしめ、語りかけることを大切に保育を行いました。細かな情報提供で保護者の方も意識が高まり、ご理解、ご協力をして下さいました。保育の質を高めるため、保育士等の学びの場を止めることなく、参集・オンライン・ハイブリッド等状況に応じて研修を行いました。

職員の産休・育休で5名の保育士が現場を離れる中、0歳児の受け入れが順調に行えたのも、全職員のチームワークのお陰だと思えます。

子どもに関する事件や事故は、後を絶ちませんが、情報を敏感に察知し迅速に職員間で共有して、安全対策を行いました。

地域福祉の拠点として、育児講座や相談の窓口を設け、家庭及び地域社会との連携を心がけました。